

すずかけ



HP



ブログ



校長だより

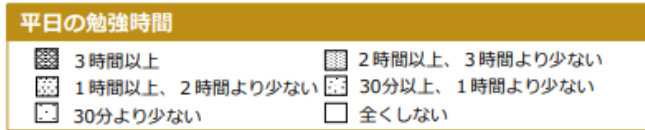
「自ら学ぶ」



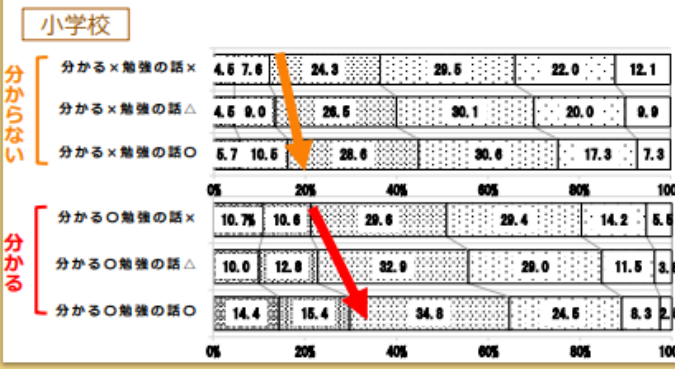
44日間の猛暑の夏休みを終え、子どもたちは元気に登校してきました。きっと、充実した夏休みを過ごしたことと思います。2学期の始まりに当たり、始業式では、「自ら学ぶ」ことについて子どもたちに話しました。本校では、「楽しく分かる授業」をめざして教職員で研究を進めており、「日常の授業が楽しく、しかも分かる」を実現するために情報活用能力を核とした授業づくりを行っています。授業の始まりは子どもたちの「なぜ?」「どうして?」「考えてみたい」から始まります。児童の疑問から課題を解決するために情報を読み込み(インプット)、それをしっかり理解し(ダイジェスト)、そして、学び伝える(アウトプット)の流れを作ります。そのサイクルを繰り返すことで学びの楽しさを感じ、自己有用感が高まることにつながります。そこで、子どもたちには、疑問をもつことの大切さと共に、疑問をもったら自ら調べ考えること、それにとどまらず、分かったことを伝えることが「自ら学ぶ」よさだと伝えました。本校の特色である「地域の財産」を使った生活科や総合的な学習の時間を中心に各教科で展開される授業は、児童が興味をもち、自ら学びたいと思える学習になっています。人生が80年あるとすれば、学校で学ぶ時間はその5分の1くらいです。残りの5分の4は子どもたちが自分の力で学んで生きていくことを考えると今から学びの心構えを作ることは大切なことだと思います。

毎年6年生で「全国学力・学習状況調査」を行います。これは、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果や課題を検証しその改善を図ったり、学校における学習指導の充実や改善等に役立てたりする目的で行われます。経年調査を見ることもでき、「課題の解決に向け自分から取り組んだ」児童は、教科の正答率が高い傾向があることが分かっています。また、三重クロス集計を見ると、家で保護者と勉強の話をし、平日の勉強時間が長い児童は算数の授業が分かるという結果が出ています。どうぞ、保護者の皆様、子どもたちが何に興味をもち、どういうふうに取り組んでいるのか聞いてみてください。

◆ 授業がよく分かる場合も分からない場合も、家で保護者と勉強の話をする児童生徒の勉強時間が長い。



三重クロス集計 [算数の授業よく分かる] × [勉強の話] × [平日の勉強時間]



「熱中症特別警戒アラート」発表時の対応について

連日、「熱中症警戒アラート」が発表されています。高松市教育委員会より、「熱中症特別警戒アラート(暑さ指数WBGT が35に達する予測)」が発表された場合の対応が示されました。夏休み期間中は、特別警戒アラートの発表はありませんでしたが、今後発表された場合には登校を控えるようになります。そのための準備やシミュレーションを行うことが必要です。この件に関するお知らせを必ずご覧いただき、熱中症特別警戒アラートが発表された場合の対応についてご家庭でご相談ください。